

第15回土木構造物検討会 議事録

1. 開催日時：平成24年10月24日（火） 13:30～15:40

2. 開催場所：日本電気協会 4C会議室

3. 出席者（順不同，敬称略）

出席委員：谷（防災科学技術研究所），山崎（首都大学東京），原口（関西電力），
中村（原子力安全基盤機構），大友（電力中央研究所），鈴木（日本原子力技術協会），
藪（北海道電力），辨野（東北電力），高尾（東京電力），河村（中部電力），
中村（北陸電力），黒岡（中国電力），小川（四国電力），若松（電源開発），
生貞（九州電力） (計15名)

代理出席：森（日本原子力発電・入谷） (計1名)

常時参加者：秦，田中（中部電力） (計2名)

欠席者：衣笠（東京工業大学名誉教授） (計1名)

事務局：日名田（日本電気協会） (計1名)

4. 配付資料

資料 No.15-1 第14回 土木構造物検討会議事録（案）

資料 No.15-2-1 耐津波設計技術規程（仮称）策定のための検討会設置準備の経緯（報告）

資料 No.15-2-2 『提案』耐津波設計技術規程（仮称）策定のための検討会の設置について

資料 No.15-3-1 JEAG4601改定について

資料 No.15-3-2 活断層関連電共研

資料 No.15-3-3 地盤・斜面関連電共研

資料 No.15-3-4 津波電共研

参考資料1 耐震設計分科会 土木構造物検討会委員名簿

参考資料2 第44回耐震設計分科会議事録(案)

参考資料3 福島第一発電所事故後の原子力安全向上に向けた学協会規格の整備計画案の作成

参考資料4 「常用漢字表」に追加された字種の周知について（周知）

5. 議事

(1) 代理出席者の承認及び会議定足数の確認

事務局から，代理出席者1名の紹介を行い，規約に従って主査の承認を得た。また出席者は現時点で15名で，会議開催条件の「委員総数の2/3以上の出席(11名以上)」を満たしていることを確認した。(最終出席者16名)

また，事務局より常時参加者の変更について紹介し，検討会で承認された。

(中部電力) 久松→秦，田中

(2)主査の選任について

主査の任期満了に伴い、主査の選任が行われた。原口委員より谷委員が推薦され、他に推薦候補がないことを確認し、谷委員が主査に再任された。

谷主査より、副主査に山崎委員、幹事に原口委員が改めて指名された。

(3)前回議事録の確認

事務局より、資料 No. 15 - 1 に基づき第 14 回土木構造物検討会議事録(案)が紹介され、正式な議事録にすることが挙手により承認された。

(4)津波検討会の発足について

河村委員より、第 43 回耐震設計分科会で審議された資料 No15-2-1, 資料No.15-2-2 に基づき津波検討会の設置について説明された。

主な質疑は下記の通り。

- ・遡上解析に基づく水深、津波外力については電力共研で取り組んでいるが、どのように考えたらよいのか

→津波検討会で検討する項目としているが、土木学会のスケジュールと整合していないことは津波検討会に認識して頂いている。記載できる範囲で制定するのは現段階では不明である。

- ・ JEAG4601 の津波評価の改定において遡上解析の内容を反映する予定か。

→津波検討会での大枠は、津波断層モデル等は土木構造物検討会で、遡上解析による施設への影響は津波検討会としている。

- ・ 電力共研を土木構造物検討会、津波検討会の両方に反映することになるのか。

→JEAC, JEAG の件もあり、将来的には統合することも考えられ、今後整理していく過程で変わる可能性もある。

- ・ 土木構造物検討会と津波検討会で、検討漏れや重複がないように綿密に情報交換して進めていく必要がある。

(5) JEAG4601 の改定へ向けた活動状況について

原口幹事より、資料No.15-3-1 に基づき JEAG4601 の改定に向けての取り組み状況について、秦委員、原口委員、田中委員により資料No.15-3-2, 資料No.15-3-3, 資料No.15-3-4 に基づき活断層関連、地盤・斜面関連、津波関連の電力共通研究の状況について説明がなされた。

JEAG4601-2008 は 2013 年が定期改定時期である。電力共通研究の成果を反映した大幅な改定は 2016 年となることから、2013 年の改定に反映できる事項とできない事項についての項目毎の仕分け作業が必要である。各作業会幹事に担当範囲について仕分け作業が依頼された。

また、作業会メンバーの変更の希望があれば、検討会幹事まで連絡することとした。

主な質疑は下記の通り。

- ・ 活断層、津波関連で 2013 年に反映できそうなものはあるか。地盤関連については、変形照査について記載方法は今後検討するが、頭出しをしたいと考えている。

→活断層と津波については、2011 年まで実施しているものもある。活断層の手引きについては、

- JEAG に反映しようとしていたものであり、2013 年の改定に反映できると思われる。
- 津波についても、去年にまとめる形で進めてきていたことから、シミュレーションの技術の進展など部分的に反映できるものはあると思われる。
- 地盤調査については、これまでの電力共研の成果で反映できそうなものはある。
- ・冊子になっていないものを 2013 年の改定に反映することは難しいことから、注意が必要である。

6. その他

- (1) 事務局より、規格策定上の周知として常用漢字の追加について紹介された。
- (2) 次回検討会開催予定
次回検討会の開催については、年度内を目途とし、別途事務局から連絡する事とした。

以 上